六里遺跡

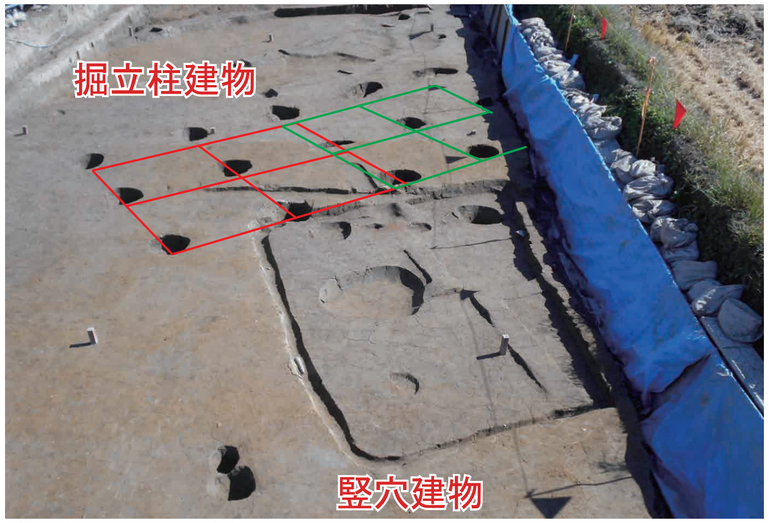
揖斐郡大野町六里・小衣斐

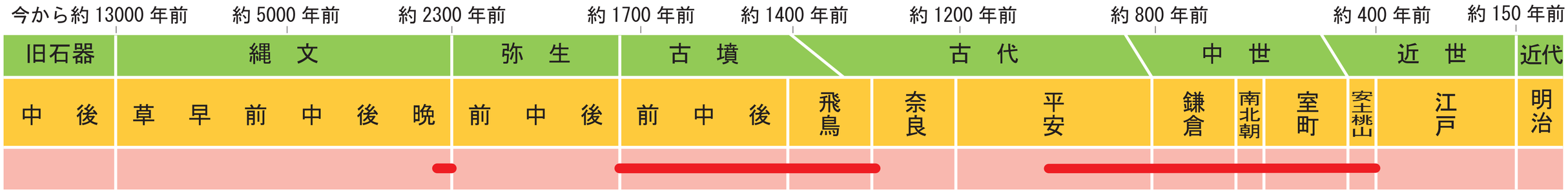
第２調査面全景

六里遺跡は、揖斐川と根尾川が運ぶ土砂によって形成された扇状地に位置しています。発掘調査によって、縄文時代や古墳時代、古代から中世の遺構を確認しました。縄文時代晩期に墓域として土地の利用が始まり、土砂によって埋没した後の古墳時代に集落や水田、古代以降に水田として利用された状況が明らかとなりました。

土器埋設遺構検出状況

縄文時代晩期の遺構は、地表下約 1.5mから見つかりました。当時は河川に挟まれた中洲状の微高地でした。写真は、土器を組み合わせて埋設した遺構で、全部で 11 基確認しました。このような遺構は乳児などの墓とされており、当時の墓地である可能性があります。



竪穴建物と掘立柱建物

古墳時代の後期には、西の微高地に集落が形成され、東の低地に水田が営まれました。写真はこの水路に近い位置から見つかった掘立柱建物２棟と竪穴建物１軒です。